

刊夕 日一月六

# 常 警 報 日 新 聞

刊 日

定價 一月五元 三月十五元 半年三十元 一年六十元  
 廣告料 五號十二字 第一行 五元 拾行 十元  
 日 曜 祭 日 の 翌 日 休 刊  
 發行所 東京市千代田区丸の内二丁目三番地  
 電話 六三〇〇  
 印刷所 東京市千代田区丸の内二丁目三番地  
 電話 六三〇〇

## 子供の顔

それ／＼

竹内 薫 平

【二】

悲観顔貌といふのは、悲しげな顔であることは申すまでもないが、下あごを少し前へ突き出して、眉間に皺を寄せ、聲の高くない泣き方をする。結核性のいろ／＼な病氣でこの顔をすする。これと似て恐怖顔貌といふのがある。下あごを前に出す事などはなく、眉間に皺などを寄せない、顔色蒼ざめて眼を開き物おちの形である。これに二た通りあつて不安なのと静かなのがある。不安で落ち付きのないのは突然飛び起きて騒ぎ廻る夜驚症といふ病氣であるが、これに唇の色の紫色といふ事が加はればデフテ

に多い。恐るべき顔の按配である。

胃腸の悪い時には胃腸顔貌といふのをやる口を開いて舌を時々出して、所謂

軽蔑する様な顔をするのである。胃や腸の病の時であるからかういふ顔に吐きや下痢といふ様な容體が加はるものである。だん／＼甚しくなると老人様顔貌、又

★〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇  
 〇明日の献立〇  
 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇★

【朝】味噌汁 豆腐 小付 煮豆  
 【晝】オムレツ  
 【晚】牛肉時雨煮 さつま芋つや煮

グオルテール顔といふのになる。鼻が尖つて眼が凹んで身體を動かさず呼吸もずつと減つて来るといふ状態勿論顔色は蒼ざめて生氣はなくなるこのかほの一番多いのは消化不良の末期でよりの死期の迫つた場合に限る

顔だけで病の判る二つの主な事は、鼻の孔を見る事と、唇を見ることである。鼻の孔が呼吸の度にビク／＼と動くのは所謂鼻翼呼吸であつて、呼吸器の病氣に限つて居り、唇の色が蒼くか、むらさきかに變つて居れば心臓の病に定まつて居る。とこゝういふと簡單だ

リといふ恐ろしい病氣と思つてよい。静かな方は概ね心臓の病氣である。デフテリでももうずつと進んで心臓が危くなつた位なの

が事實は此外いろいろの點を參照して斷案を下すべきものであるとはいへ、大特徴なるには相違ない。

小兒直訣といふ本は宋の世、錢仲陽の著である。これに脈法、面部症、目内症と三つを小兒の病氣診察の主な點の中に敷へられてある、額は心の臟、鼻は脾臟ガク（あご）は腎臟、それから左腮は肝、右腮は肺を司るとして額鼻ガク腮を注視するとそれ／＼内臟の故障の有無が判るとされてある

又眼を見ると矢張り今でいふ角膜や虹彩の状況で内さうが判るとされてある。又小兒推拿といふ書物は熊運英の著したものであるがこれにもかほを見る事を非常に重くしてある。これ等書物の説くところが今日の醫學と比べると勿論符節を合するが如しと思はるゝ點

否問違つてゐると思はるゝ點の方が多いが、かほほ心の鏡私の所謂かほは身體の縮圖といふ考は随分昔からあつた事だけはたしかである

フレンチロジ（骨相學）には動かぬかほ子供の健否を観るには動いてるかほが大切である。非情のかほ、有情のかほ。真理はいつも明明々地であるといふ事を私は子供のかほを見つめて居てつく／＼となつて居る。

# 治療

ホシチエン

微毒内服薬

ホシチエン  
 1.00  
 3.00  
 5.00

花柳病豫防薬

ホシチエン

1.00

ホシチエン

1.00

御參詣團體募集

柳津。日光團體定員超過に付第二回募集

一、柳居津國藏尊（猪苗代湖白虎隊廻り）  
 申込 切 六月九日  
 出 發 六月十日午前四時

二、成田山（宇香嶽）笠間稻荷廻り  
 申込 切 六月三日  
 出 發 六月四日午前二時

三、日光（笠間稻荷廻り）  
 申込 切 六月十五日  
 出 發 六月十六日午前一時

主催 尼子遊覽部  
 電話 六四〇番

平南町（電話二四三）

# 優良投資株式賣出

富國礦業株式會社  
 東京市京橋區東京ビル五階  
 電話 三三九・四六五・三八〇

資本金 壹百萬圓

種 田村郡飯豊村、御館村外數村  
 白銀、銅、鐵、ニッケル  
 田村郡飯豊村、御館村外數村  
 白銀、銅、鐵、ニッケル

色 菅テ各新聞紙上に於て發表サレ既ニ御承  
 知ノ通り本縣石川中學校教諭菅谷氏ノ献身の研  
 鑽ニヨリ從來不可能視セラレタル最難基性岩石  
 ヲリ白金、ニッケルノ檢出精練ニ成功シ我國化  
 學工業軍需工業ニ一新紀元ヲ劃シ各方面ヨリ期  
 待セラレ最近社會狀況ニ乗ジ頓ニ進展セル有望  
 事業ナリ

尚ホニツケルニ對シ軍需工業助成ノ爲メ國庫補助  
 ヲ交附サル、ニ確定シ既ニ官報ニ發表セラレタリ  
 右一株額面二十圓全額拂込済株式ヲ特價ニテ提供致  
 シマス御報次第參上パンフレット進呈

取扱店 大福湯本證券會社  
 湯本町驛前 電話六十七番

出張所  
 平町大町大通り三共商會合資會社  
 電話三六〇番

# 川井内科診療所

川井 安子

平南町（電話二四三）

主治 尼子遊覽部  
 電話 六四〇番

定員ハ各車共二十二名  
 定員未滿ノ節ハ勝手ラ延期致ス事モアリマス  
 尚御希望ニ依リ各種團體モ御相談ニ應ジマス

# 軍艦の便乗希望が

## 百二十八名の多数

▽許可はタツタ四名

▽役場が人選に悩む

既報本月十六日小名濱港を  
出帆鹽釜港に向ふ軍艦那珂  
の便乗希望者は平町役場へ  
の申込み既に百二十八名の  
多数に達したが本日町役場  
へ到着した海軍側からの通  
牒に依ると平町の便乗者は  
僅か四名を限り許可すると  
の事に便乗許可廿名の昨年  
でさへも可成猛烈な許可争  
奪戦が演ぜられプレミアム  
付迄現出した程である爲め

### 安値氣配

平農倉共米

平農倉倉庫は本日午後三  
時から産米共同販賣を行ふ  
が出荷数は大野の百四十一  
俵外合計六百七俵で前回相  
場の十一圓十三錢に比し幾  
分安値を豫想されて居る

# 豊漁豫想

## 磐城丸の無電

漁場は漸次磐城沖に

小名濱水産試験場の指導船  
磐城丸は去月十九日小名濱  
を出港二百海里の沖合で海  
流観測を行ひ更に現在は千  
葉縣銚子沖合で鯉漁場の調  
査中であるが昨卅一日水産  
試験場に報告された無電に  
依ると銚子沖合百海里乃至  
百五十海里の洋上には本縣  
の鯉漁船十一隻が出漁して  
居り此處二、三日は鯉の外  
にトンボ鮪も漁獲されて居  
り漁場も漸次本縣沖合に移  
動され鯉漁は愈よ本調子に

### 都市視察

出發相次ぐ

平町の市制施行調査委員会  
の産業資源部は野崎副議長  
以下一行が七日出發し九州  
の炭礦地延岡迄視察旅行を

行ふが更に坂本町議一行の  
土木交通部員は来る七日午  
後三時二十三分平驛發列車  
で五日間に亘り左の視察旅

### 鯨南農校

男女兩部分離

錦村鯨南公民農業學校は今  
回創立後滿三ヶ年を経過し  
たので實業補習教育規定改  
正に伴ひ男女兩部に分離獨  
立せしめ男子部は荒井、女  
子部は水品兩講師が主任と

### 汗に塗れて...

勤勞する人々

躍動の季節に  
其姿が雄々しく輝く

### 張緊の六月

山野悉く深緑に掩はれて土の香に親しむべき  
のころとなつた磐陽野球戦をキツカケに野球  
庭球、水泳等を始めあらゆるスポーツに若人  
の躍動する季節田圃は春蠶の上簇と田植に繁  
忙を極め、冬を越して残された夏井川、鯨川  
其他の巨救事業は今や酷となり全部隨所に汗  
に塗れて勤勞する人々の姿が雄々しく輝き櫻  
桃の走りが商家の店頭を飾つて味覺をそより梨の被袋  
が飛びが如くに賣れ行く六月の如何にも緊張した空氣  
がみなぎる中には殊に四倉や植田の市場に繭の取引が  
養蠶村の特長を發揮する

### 三校醫や看護婦も

學童旅行團に参加

平町各小學校尋常六年生の  
日光中禪寺湖方面修學旅行  
はいよいよ明日午前五時  
卅分特別仕立の列車で出發  
するが本年は新設された學  
校看護婦が附添ふ爲め父兄  
は幾分安心の處へ三校醫も  
參加する事に自發的申出が  
あつたので大喜びである尚  
各驛通過時間左の如し

集合午前四時半 平驛發  
五時三十分 水戸着七時  
三十八分 友部着八時四  
分 笠間着八時十五分  
小山着九時十五分 宇都  
宮着十時八分 日光着十  
一時十分△歸途 日光發  
午後零時五分 宇都宮着  
零時五十二分 白河着三  
時五分 郡山着四時十二  
分 平着七時七分

### 磐女野球勝つ

磐城  
高等女學校對平第二小學校  
の職員野球試合は昨三十一  
日午後三時より磐女校庭に  
おいて水竹(球)齊田(壘)兩  
氏審判の下に第二校先攻に  
て開始されたが磐女軍打撃  
大いに振ひ十一A對三で磐  
女軍快勝した

### 勞作教育講習

勞作  
教育研究講習會は今日よ  
り二十日本邦勞作教育研究  
の權威者を網羅して錦村小  
學校に開かれるが平町三小  
學校より左記諸訓導が出席  
した

(第一校)玉手 齊藤 大  
和田 橋本 松本 松崎  
(第二校)安藤 松本 鈴  
本 海野 常陸 蛭田  
海老原(第三校)渡邊 長  
谷川

### 五年對抗試合

平第  
一校對第三校五年生兒童の  
バスケットボール及び競技  
の對抗試合は今日午後二  
時より平第三小學校々庭で  
行はれた

### 平町人事

△出生  
鎌田町三二 高木保治郎  
氏五女タミ子  
△婚姻  
△東京市本所區大平町三丁  
目古田部一男氏(二六)古  
鍛冶町志賀千代子(二四)

### 東京短期(前場)

新東	一三二	一四五	一三六
新新	一八八	一九〇	一八六
新錦	三三三	三三九	三三五
新日	二二九	二二九	二二六
新日	二二九	二二九	二二六
新日	二二九	二二九	二二六
新日	二二九	二二九	二二六
新日	二二九	二二九	二二六
新日	二二九	二二九	二二六
新日	二二九	二二九	二二六

# 美味! 芳醇!

## 宗正らひた

山崎合名會社  
電話一〇番

### 一冊の代金で

御希望通りな

五冊の雑誌が

自由に讀める

川崎巡回文庫

電六三〇番

(申込次第規則書進呈)

### 体温計の検査日です

## 10日 検査新 お宅の体温計は?

◎確な体温計を御使用下さい  
◎毎月十日の検査日御利用下さい

度量衡 指定販賣人 西村屋藥局  
計量器

平・二 電三番

# 三名は九死に一生

## 未だ五名の屍体が不明

### 坑道の横腹に

### 大穴を明ける

### 決死の作業続く

昨報ガス爆発の湯本町入山炭鑛第六坑内は決死隊の努力で通風設置が漸く開通したが坑内のガス排出は未だ完全に至らず依然發掘作業に困難を極めて居る鑛業所では最後の

### 落盤箇所

に埋没せる五名の屍體捜査に全力を盡し昨夜より新子の救助坑夫三十餘名が入坑して落盤坑道の右端に大穴の開鑿作業を進めて居るが五名の屍體は未だ發掘されない是が失敗に終れば更に左端の開鑿に着手する豫定であるから

### 屍體發掘

迄には今後二、三日を要するものと見られて居る、尙本日迄に坑外に搬出された者は入坑者五十二名のうち四十七名で應急手當を受け九死に一生を得て蘇生した者は三名あり残る埋没屍體が本日に發掘され、のを待つて明日盛大な葬儀を執行すると因に會社側からは取敢ず遺族に百圓の見舞金を贈つたが更に鑛業法に依る弔慰金を最高二千圓迄贈呈する等炭鑛は遺族の手當に萬全を期して居る

# 被害金高は

## 四千圓

### 相馬小僧の悪業

### 乾分を養ひ豪華な生活

既報仙臺市の政宗公三百年祭の雑踏中で拘模を働いた相馬小僧事好間村字町田前科六犯遠藤忠三(三)は常に乾分七八名を養ひつゝ拘模を働き豪華な生活を續けて居た者であつて仙臺に於ける犯行も去月廿五日同市東

一番丁の雑沓中で東京市荒川區日暮里町鈴木徳太郎氏の現金四百五十圓を拘つたのを初め青森縣警務局長官吏大泉勝吉氏の現金六十五圓宮城縣衛生課地疋技師の金時計等その被害四千圓の多額に及んで居る

### 山崎氏に

### 記念品を贈呈

### 農會長の功勞

平町農會は前會長山崎與三郎氏の在任中の功に酬ゆる爲め記念品を贈る事となり

# 手當り次第

## 家財を壊す

### 泥酔三人男が

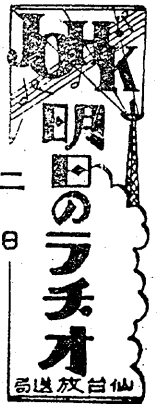
### 料理屋で暴行

湯本町字三函居住の潜り周旋尾永井七郎(四)は昨一日午後八時頃泥酔して乾分二名と共に同町字吹矢料理店大黒屋事駒木根拾十方に立寄り酒だビールだと矢継ぎ早に注文したが断られたのを憤慨し三名は土足の儘で室内に上り込み箆、火鉢、其他室内の家財道具全部時價五百圓餘を手當り次第破壊して平署に檢舉された

### 軍人後援と

### 時局問題

帝國軍人後援會福島支部は



明日のラジオ  
今晩の部  
後六、〇〇 子供の時間  
子供の科學講座「獨樂から生れた兄弟」中村貴義  
後六、二五 講演「選挙の肅正に就て」大森桂一  
後七、三〇 琵琶「船辨慶」大飼錦棋  
後八、〇五 二人漫談「花の寝言」杉浦エノスケ  
来る五日午後七時から會長諸橋久太郎氏宅で協議會を開くと

衛生試験所發表  
前九、三〇 偉人物語「六月生れの偉人」三浦樂堂  
前一〇、〇〇 日曜勤業導師僧正長亮  
前一〇、四〇 趣味講座「南蠻文化に就て」經濟學博士吳文炳  
前一、一〇 講演「蘆東山を語る」蘆育平  
後〇、五〇 満洲より「ハルビン」蒙古音楽  
後一、二〇 寄席中繼 落語「洋行歸り」三遊亭小圓  
馬「元犬」桂圓枝  
後二、〇〇 落語「大丸騷動」桂正木助  
後三、〇〇 野球試合實況

東京大學野球聯盟リーグ  
後六、〇〇 子供の時間物語「本能寺の變」石橋恒男  
後七、三〇 文藝座談會「大阪の話はか」谷崎潤一郎 岡田嘉子外  
後八、一〇 長唄「土蜘蛛」(上の巻)唄吉住小四郎  
後八、三〇 萩江節「短夜」萩江米子 二「竹」萩江壽々  
後八、五〇 管絃樂 第一組曲「朝」三「オーゼ」死「外」第二組曲「イングリッドの嘆き」二「アラビヤの踊り」外 獨唱井崎嘉代子 日本放送交響樂團

### 明日の部

前九、一〇 季節料理「卯の花と鯛の料理」東京市置でマツチを使用した儘外出し同物置より發火居宅共二棟を全焼し平區より失火罪略式罰金二十圓  
△双葉郡野村大字土野字澤東十七農武田久造(三)假名一は昭和八年八月中旬より九年九月中旬までの間三回に亘つて同村西貞藏外一名の居宅へ夜十時頃故なく侵入し家宅侵入罪として平

# 亂暴組頭を

## 罪金十五圓

石城郡赤井村大字鹽田字宮の後五二同村消防組頭白土岩尾(三)が去る四月十七日午後六時頃小川驛前龜屋旅館で小川郷火防組觀櫻二次會で飲酒し歸途同伴の赤井火防組伍長松本幸重の頬を毆打した揚句靴で蹴りつけた事件は今日暴行罪で略式罰金十五圓に處された

# 氷代を飲み

## 急に景氣付く

曳いて居たりヤカも賣つて飲み代を作るトタンに捕る湯本町字三函三八山崎武方 奉公人茨城縣東茨城郡西郷

### 平職業紹介所報告

求人を求める方  
△牛乳配達 二十五才 高卒 月十三圓  
△調理職 二十五才 尋卒 食事付月十圓  
△配達人 二十才 委裏面談  
△小店員 十六才 仕着小遣  
△回職を求める方  
△炊事婦 四十七才 尋卒  
△職工 二十六才 中卒  
△外交員 二十一才 尋卒  
△水配達 二十五才 高卒



# 明治太平記

(無断転載 上野及上野)

(作) 寺島証史

(監) 野口 暉

第三百二十八回

## 情 艶 (五)

「泥を吐けい」

「江藤さま、仕方がありません、真直に申し上げませう。實は仰しやる通り政府の大官をねらつて居るものなんです。」

「なに、ねらつて? 誰だ。」

「はい、ねらつて? 誰だ。」

「西郷か、木戸か」

「いえ、大久保さんなんです。」

「大久保? あの市藏を、おのれは?」

「江藤は思はず膝を乗り出した。」

「はい、大久保さんを刺害しようとの数日どんなに苦勞したかしれませんわ」

「それはまた、何故大久保を狙うのぢや、誰にたのまれた?」

「どなたにも頼まれしませぬわ、あたしの一存で」

「虚言はゆるさんぞ」

「江藤はきびしく睨んだ。」

「いえ、正直正銘まぢがひのないところですか。大久保さんに恨みがあるんですの」

「うむ、恨みの筋をいつて

「實は、あたし上等社會の小貴婦人を装うて居りますけど、まづたくは泥棒なんですの」

それが例の傳馬町の牢屋から出て來てからはいよいよ本格に女に成切つて居つたその女装が、今度意外に彼をして重い役割を演じさせることになつたのだ。つまり明治白浪を名乗る五人男の一味が、大久保の差金だといふので井手六三郎の口きで、廣澤參議暗殺を請負つた。首尾よく仕事を遂げて夢に畫いた莫大な恩賞の段になると、大久保は暗殺の差圖をした覚えはないと井手を突つばねてしまつた。それどころか井手が



一人、人斬り、青山良順といふおそろしいぬすつとで人斬りの名人なんですの

頭目にいたゞく、明治白浪五人男の一人、人斬り青山良順といふおそろしいぬすつとで人斬りの名人なんですの。すら、と何のよどみもなく云つてのけた。人斬良順が女装して上等社會を巧に泳ぎ廻つて居るのは可成以前からである。

暗殺の嫌疑者として彈正臺へ引つぱられてしまふといふ始末。せつかく、命を投げ出してやり遂げた廣澤暗殺がむだ仕事に終つたので、おさまらぬのは五人男の面々だ。おのれ大久保奴が……と恨みのまを大久保へむけたのはまさに當然のこと

天竺始め五人男が泥棒の商賣氣をすて、真底から大久保の命をねらふやうになつたのはこれまたまさにもり得べきこと。そこで、自發的に大久保暗殺の陰謀をめぐらす事になつたが、さて今度は廣澤に近づく様に、やすくと事を運ぶ譯にいかぬ。大久保はこの日頃、八方に敵を有して居るので身邊を非常に警戒しつゝをる。それも廣

澤暗殺の怪事件あつて以來身をまもることがすこぶる嚴重である。市井の盜賊ごときの容易に近づけるものではない。ふと思ひついたのが人斬り良順の女装だ。良順は人を斬るに妙手であるのみか美女に化けるの天性の麗質をそなへ、居る。良順の半生は男といふよりもむしろ女だつた。

喜多流 謠曲と仕舞の  
お稽古を奨め致します

平町田町六九  
喜多流 仕 舞 白 土 會  
電話一二七番

# 花柳病の豫防と治療

## 「花柳病の豫防」を提唱す

陽 春 期 を 迎 へ 徹底的治療が肝要

- 一、花柳病發生に時期はないが、生物すべてが生殖能を深くする陽春期が長くなり一帯の感染率が多くなり、また一度感染した人でも徹底的な治療を受けるために再感染し、人生にとつて樂しかる可き陽春の春も、花柳病者にとつては決して愉快なものではなく、人生の幸福を自覚すればする程、その苦悶から退いて一人悄然と暗夜に立つ儼然を産み出す。その悲劇に勝れる多くはこの春である。
- 二、花柳病の怖しさに就いては何人もこれを察知して居る通り、この疾病は恐ろしく、ある人となつたり、また幸福なる家庭を破壊したり、前途ある身を自ら死を逃び花柳病から起る罪障は益々増へる一方で、國家のため海に飲まれたくない。
- 三、本社ではこの怖しい「花柳病」を徹底的に撲滅せんがため、左記本社製品の全面的な支出を行ふこととなつた。我々の花柳病薬は長き歴史と、最新の學理に基づく研究によつて完成された「花柳病」の唯一の良薬であることは一般の識者もご存知のことである。
- 四、近時花柳病の感染多く、醫利主義の安心ならぬ賣薬が市井に溢れて居るが、こうした薬に依つては決して快復を望むことが出来なかりでなく、むしろ病勢を益々悪化させるのみである。
- 五、花柳病の寛服、信用ある薬の服用に依つてのみ希望は達せられる。あれこれ迷はず「ホシシクロ」を決め、「花柳病」の治療と豫防に専念を期していただきたい。

### 花柳病豫防薬

#### ホシシクロ

豫防薬の元祖とも云ふべきに「シクロ」の名を稱えての類似品あり。これにてもその真價を知るべし。

### 療病内服薬

#### ホシコノール

療病は「コノコ」菌の感染による恐るべき病疾にて、療毒が眼に入ると療毒性結膜炎(風眼)を起して失明に至る程である。ホシコノールは尿の分解を抑制して「コノコ」菌の繁殖を制止し又尿に防腐消毒の力を附與せしめ以つて尿道の炎症を治癒して治病の目的を達するものである。

### 療病注 入 薬

#### ホシズルファミン

本剤は我々の日本博士の創製にかゝるコロイド状態に殺菌力の強大なるヨードを配合せしめた獨特なるものにて無痛の挿入薬である。主治効能 急性慢性の療病、尿道炎、膀胱炎、陰部腫痛。

### 徹毒内服薬

#### ホシサヨリン

1.00 3.00 5.00